

第50巻第1号特集「土木界——これからの課題」についてのアンケートから

会誌編集委員会

土木学会創立50周年記念出版の一つとして刊行された、本誌第50巻第1号の特集「土木界——これからの課題」の別刷を、各位に送付するに際し添付したアンケートの集計結果が判明したので発表する。なお、本文中の「一般」は、回答者が各界の指導者層であることを意味し、「学生」は、関係学科に在学中の高専、大学の生徒、学生からの回答を意味します。記して、回答を寄せられた各位に謝意を表します。 [編集部]

1. 土木学会の認知度

(1) 一般

二、三の方を除いて、回答を寄せられた多くの方は、「知っていた」と答えられた。「知らなかった」と答えられた方は国立大学の法、経の教授、その他の方々であった。

(2) 学生

回答を寄せられた方(記入分のみ)全員が知っていた。

2. 土木学会を何で知ったか

(1) 一般

工学部の友人から聞いた、当然あると思った、電車の窓からみたなど多種多様であるが、学問をとおして知っていると思われた方は、一名もおられなかった。

(2) 学生

映画会、会誌を通じて知ったのが約20%、残り全部は、先生からその存在を聞いたと回答された。

3. 「土木」という言葉のイメージ

(1) 一般

築堤、トンネル、貯水池等、いわゆる「土」に関する工事(産業科学評論家 大後美保氏)等、これに類する回答を寄せられた方が多かった。この他、従来は「土木」、これからは「Civil Engineering」(北大農学部 矢

鳥武氏)、いまだに土方、汚職のにおい(電研 林 正夫氏)、若いうちは少し品悪く感じたが、今は何ともない(東大法学部 石川吉右衛門氏)、何か非文化的で、荒々しい感じ(東大史料編纂所 小西四郎氏)、雄大といいたいが、現実の新聞記事の現象が、そのイメージを打ちこわす(東京農大 山本峰雄氏)、人類の文明の基礎をつくるもの(著述業 戸塚文子氏)、土木建築的な解釈を従来していたが、本小冊を読んで、土木建設→国土建設と理解した(漫画家 松下井知夫氏)、現代工学の一部門「土木」の呼び名としては、不適當と考える(東洋大 平山 嵩氏)、土地やそれに関連する大施設についての総合技術(気象学会 常務理事 鯉沼寛一氏)、木を使う工事と、土を掘る仕事(水産庁 阿部宗明氏)、地域工学といえるでしょう。地域の科学たる、地理学とは密接な関係があると思う(都立大 中野尊正氏)等、多々解答を寄せられた。

(2) 学生

非常に前向き、明るい解答が多い。すべての産業の基礎をつくる(近畿大 大福吉則君)、古く、粗野な感じであるが、これから変えられると思う(明石工専 小林 紘実君)、土木→現場を連想するが、建設であると認識したい(金沢大工学部学生)、自然にどっかと根をおろしている感じ(小石川工高 稲山 勉君)、同系の建築の陽に対して陰、明るさはないが力強さ、泥臭さ(塩尻 繁君)、人間生活向上の一手段(小石川工高 豊田行雄君)、一般的印象とは異なり、一口にいって力強い建設の力(熊本大 立川善章君)、日常環境が対象ゆえに焦点がぼやけやすいが、いわゆる Civil Engineering を考えたい(東北大 井城昭平君)、土木というと土方等とすぐ結びついて印象は良くない(小石川工高 谷内利郎君)、Civil Engineering とはほど遠い実情(明石工専 山根四郎君)等の解答を寄せられた。

4. 「土木界——明日への課題」について

(1) 一般

わかりやすく、しっかり根をおろした工学をバックに記された「夢物語」である等の理由により、大方おほめ

の言葉をいただいた。しかし、「将来を予測するには、過去も重視せねばならない（小西四郎氏）、図、表、写真等少ないので、迫力にとぼしい（平山 嵩氏）、シリーズのようにされたかった（藤田睦博氏）等の意見もみられた。結果的には、松下井知夫氏のつぎの意見に集約できそうである。

「実際の数々の理想が語られており、現在の国家的、民族的な夢を持ち得ない青少年の人づくりのためにも、よい刺激でした。大衆的に PR すべきだと思います」。

(2) 学生

土木とは何であるのか、今日学んでいることは将来何の役に立つものなのかと、いろいろ考えている世代にとって、本特集は一つの方向を示すよい刺激となったようである。ただ、全体を短かいページ内に圧縮した関係から、ものたりなかった印象、あるいは長すぎたと書いてこられた方もおられた。

5. 特集の中で最も印象に残った記事

(1) 一般

各位のご専門によって、その印象を受けた記事が異なり票が散っているが、今日までをみつめて、新しい都市像、エネルギー施設、若き会員諸君へ望む等への投票が少し多い。しかし、これは数票の差であるので何とも判定はつげがたい。ただ、初代会長 古市公威氏の講演に強い印象を受けた、と記された方が3名おられた。またもっと大きい夢があるはずである（菅原通済氏）との意見もあった。

(2) 学生

今日までをみつめて、これからの土木技術者、土木構造物と材料、明日の研究への賛意の集中がみられ、いかにも、若者らしい意気込みが感じられた。

6. 今回の特集で欠けている点

一般、学生とも、関連する政治、経済への配慮、将来よりも現実のあい路の解明、研究員の養成と研究の組織化（林 正夫氏）、世界の技術水準と日本のそれとの比較（彰国社 下出国雄氏）、うなぎ屋の前を匂いだけかいで通ったみたい（戸塚文子氏）、将来に対する自信と抱負（松下井知夫氏）、海の利用（阿部宗明氏）、現在の分折とつっこみ（西村宣男氏）、点、線の土木から面の土木へ（中野尊正氏）等の有意義な注目が寄せられた。

【文責・編集部】

出版PR プレパックド・コンクリート

わが国に導入されてから10年という歴史をもつプレパックド・コンクリートの総合カルテが学会から出版された。水中コンクリート工法の施工法として最も安定し、経済的にも優れた工法として認識されながらも、従来とかなり異なった施工方法であること、水中の場合、施工状態の確認が簡単でない、工事資料の取まとめたものがない、など採用に二の足をふんでいる技術者も多いようである。個々に散在する資料を収集し一般に公開したい、これが若き研究者 赤塚雄三氏を中心とする運輸省港湾技研の宿願となって生まれたのが「プレパックド・コンクリート施工例集」なる書籍である。本文322ページに付表5枚、付図1枚というコンクリート・ライブラリーのシリーズとしては初めての大作であり、値段は少々はるがコンクリート関係者の有益な資料として活用が期待される本のひとつである。

内容目次：プレパックドコンクリート施工過程説明写真／鉄筋コンクリート／単塊コンクリート／中詰コンクリート／基礎コンクリート／部材の結合／根固め工／既設構造物の補修および補強／総括表

コンクリート・ライブラリー 13号

プレパックド・コンクリート施工例集

運輸省港湾技研編

2000円（送料150円）

会員には1600円（送料150円）で発売中。受注生産のため残部が少ししかありません。お早目にご注文を……

■工学研究者の最近の研究題目調査

についてのお知らせ

日本学術会議第5部では先にわが国における代表的工学研究者および技術者の研究題目を調査し、その整理結果を「工学研究者名簿」として刊行してから数年を経ましたが、利用者の方々よりその改訂を望む声が多いので収録内容等に検討を加え、新たに「工学研究者要覧」と名を改めて刊行することになりましたので、関係各位は日本学術会議事務局5部係（東京都台東区上野公園内 電話 東京 821-3751）へご照会下さい。